

株主メモ

決算期 3月31日

定時株主総会 6月

基準日 3月31日

(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)

利益配当金支払
株主確定日 3月31日

中間配当金支払
株主確定日 9月30日

上場証券取引所 東京・大阪・名古屋・福岡・札幌

公告掲載新聞 日本経済新聞

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目6番2号
みずほ信託銀行株式会社

同 事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目6番2号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

〔郵便物送付先〕 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
〔電話お問合せ先〕 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 03)3642-4004 (大代表)

同 取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
安田信託銀行株式会社 本店および全国各支店

お知らせ

配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができるようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので、上記名義書換代理人までご請求ください。



Vol.6

第83期 事業報告書
平成12年4月1日～平成13年3月31日



©Donna Perkins/Art Editions/ATTIC

CONTENTS

| | |
|---------------|----|
| 株主の皆さまへ | 2 |
| 連結財務ハイライト | 3 |
| 単独財務ハイライト | 4 |
| 連結決算概要 | 5 |
| グループ中期経営計画の概要 | 10 |
| 単独決算概要 | 11 |
| KEY WORD | 13 |
| INTRODUCTION | 15 |
| おいしさひと工夫 | 16 |
| ニチレイコラム | 17 |
| まあいテーブル | 19 |
| 株式の状況 | 21 |
| 会社概要 | 22 |

表紙絵の画家プロフィール

表紙絵は、米国人女性画家 Donna Perkins (ドナ・パーキンス)さんの作品です。現在、米国サンフランシスコにて共同ギャラリーを開いており、その作品は絵画やカードのほか、Tシャツやランプシェードにも用いられ、人気を集めています。



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ここに第83期事業報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当社は、1999年度から2000年度までの修正中期構造改革計画のもと、資本効率の改善を図るための事業運営や経営システムの構造改革に成果をあげてまいりました。

当期の連結業績は、依然として厳しい経済環境のなか、国内子会社の会計処理の変更や北米子会社の売却により売上高は前期を若干下回り、当期純利益が退職給付会計や金融商品会計の適用などにより前期に比べ減益となりましたが、スリムで強靱な収益体質の完成に向けた取組みが実を結び、営業利益と経常利益はともに過去最高益を計上することができました。

今後につきましては、激変する経営環境のなかでも常に自己変革を続け、成長していく企業集団になることをめざして策定した「グループ中期経営計画(2001年度～2003年度)」に基づき、資本効率の改善を引き続き重要な課題として捉え、成長分野への設

グループ中期経営計画

スリムで強靱な企業体質を活かしながら、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」としてコーポレートブランドを高め、リーダーシップを発揮する食品上位企業としてのステータスを確立させる取組みを計画の基本としています。

2003年度グループ経営目標(連結)

| | | | |
|------|---------|---------|---------|
| 売上高 | 6,500億円 | 当期純利益 | 95億円 |
| 営業利益 | 230億円 | 1株当たり利益 | 30円56銭 |
| 経常利益 | 200億円 | 有利子負債 | 1,450億円 |

備投資の集中や、大型の資本投下を必要としないノンアセット型事業を強力に推し進めることにより、使用資本を抑制しつつ収益の拡大を図ってまいります。同時に、サプライチェーン全般にわたる物流改革ニーズが新たな市場を形成しつつある「低温物流事業」と、食品産業のなかで成長の著しい冷凍食品を中核に有する「食品事業」をコア事業と位置付け、これらをさらに発展・強化させる成長戦略を推進してまいります。

また、従来のグループ経営管理方式を見直し、当社グループ全体の成果目標を達成するために各社の役割と責任体制を明確に規定した「事業ユニット(グループ内カンパニー)制」を導入し、ニチレイグループの企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年6月



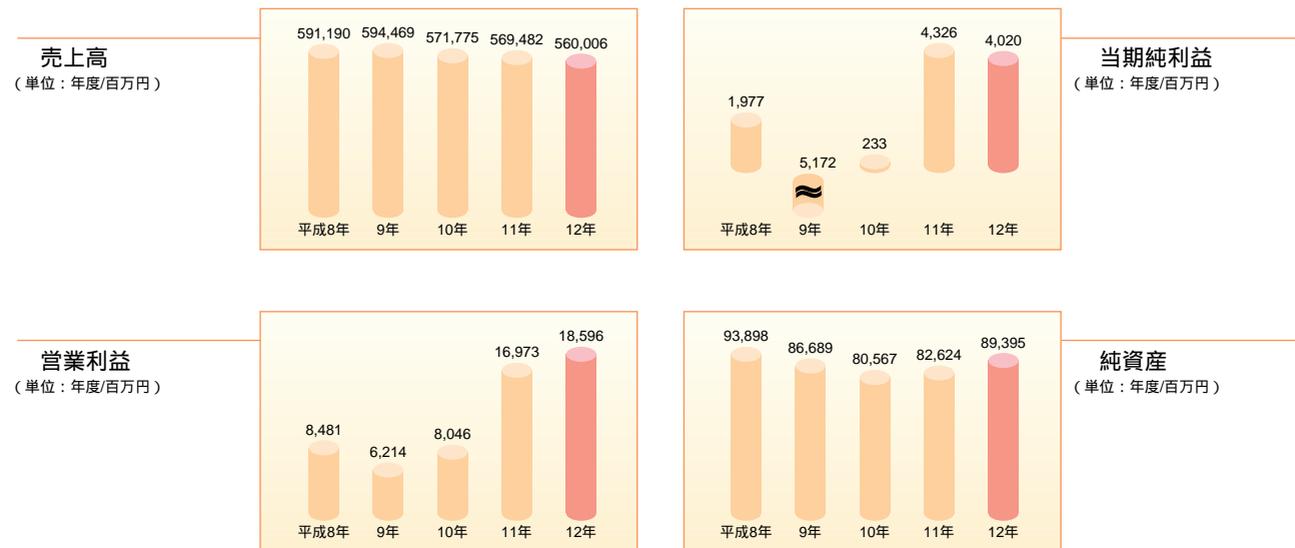
代表取締役社長

浦野光人

代表取締役会長

大戸武元

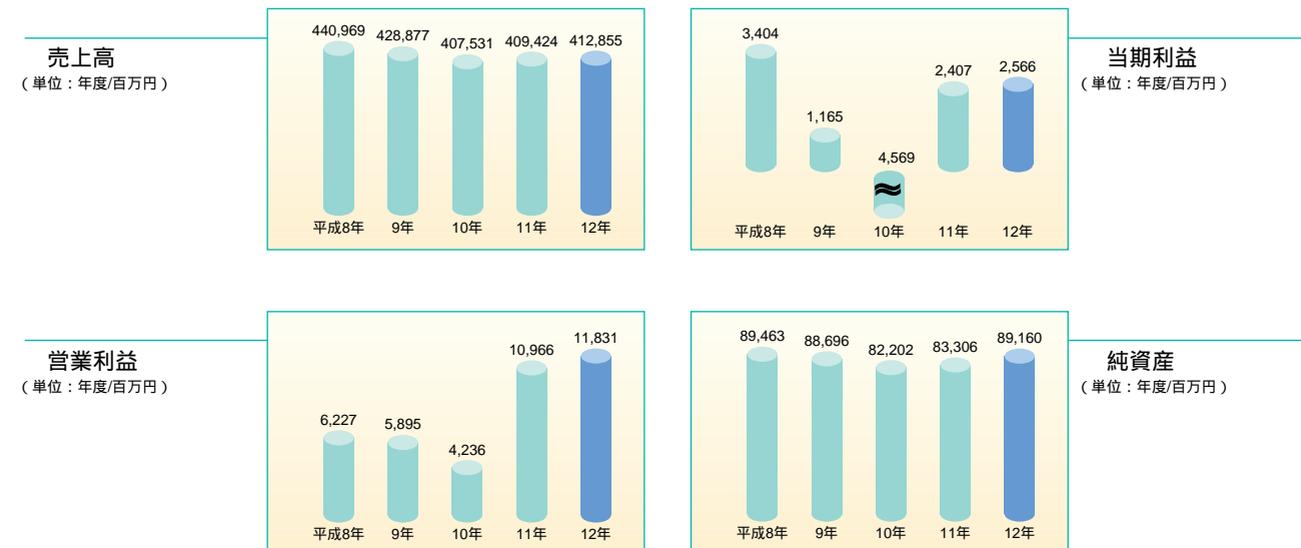
連結財務ハイライト



| 区 分 | 単位 | 第 7 9 期 (平成 8 年度) | 第 8 0 期 (平成 9 年度) | 第 8 1 期 (平成10年度) | 第 8 2 期 (平成11年度) | 第 8 3 期 (平成12年度) |
|------------|-----|----------------------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 売上高 | 百万円 | 591,190 | 594,469 | 571,775 | 569,482 | 560,006 |
| 営業利益 | 百万円 | 8,481 | 6,214 | 8,046 | 16,973 | 18,596 |
| 経常利益 | 百万円 | 3,646 | 2,326 | 3,383 | 11,711 | 15,483 |
| 当期純利益 | 百万円 | 1,977 | 5,172 | 233 | 4,326 | 4,020 |
| 純資産 | 百万円 | 93,898 | 86,689 | 80,567 | 82,624 | 89,395 |
| 総資産 | 百万円 | 388,613 | 393,032 | 365,838 | 370,623 | 367,770 |
| 1株当たり純資産 | 円 | 302.07 | 278.88 | 259.18 | 265.80 | 287.58 |
| 1株当たり当期純利益 | 円 | 6.36 | 16.63 | 0.74 | 13.91 | 12.93 |
| 設備投資額 | 百万円 | 19,205 | 12,145 | 11,103 | 31,273 | 9,703 |
| 減価償却費 | 百万円 | 14,504 | 15,357 | 15,572 | 16,547 | 14,003 |
| 有利子負債 | 百万円 | 200,632 | 217,322 | 195,994 | 194,840 | 172,704 |
| 従業員数 | 名 | 6,835 | 6,502 | 6,147 | 5,951 | 6,907 |

- (注) 1. 第82期から税効果会計を適用しています。
 2. 第83期から金融商品および退職給付に係る会計基準を適用しています。
 3. 印は損失を示しています。
 4. 1株当たり当期純利益は期中平均株式数(自己株式数を控除)に基づき算出しています。

単独財務ハイライト



| 区 分 | 単位 | 第 7 9 期 (平成 8 年度) | 第 8 0 期 (平成 9 年度) | 第 8 1 期 (平成10年度) | 第 8 2 期 (平成11年度) | 第 8 3 期 (平成12年度) |
|-----------|-----|----------------------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 売上高 | 百万円 | 440,969 | 428,877 | 407,531 | 409,424 | 412,855 |
| 営業利益 | 百万円 | 6,227 | 5,895 | 4,236 | 10,966 | 11,831 |
| 経常利益 | 百万円 | 4,558 | 4,703 | 2,291 | 7,515 | 11,302 |
| 当期利益 | 百万円 | 3,404 | 1,165 | 4,569 | 2,407 | 2,566 |
| 総資産 | 百万円 | 290,938 | 288,643 | 277,498 | 264,619 | 270,743 |
| 純資産 | 百万円 | 89,463 | 88,696 | 82,202 | 83,306 | 89,160 |
| 1株当たり純資産 | 円 | 287.80 | 285.33 | 264.44 | 267.99 | 286.82 |
| 1株当たり当期利益 | 円 | 10.95 | 3.74 | 14.69 | 7.74 | 8.25 |
| 設備投資額 | 百万円 | 13,729 | 7,688 | 5,301 | 3,482 | 5,020 |
| 減価償却費 | 百万円 | 9,613 | 9,970 | 10,265 | 10,741 | 8,291 |
| 有利子負債 | 百万円 | 130,878 | 134,798 | 126,877 | 107,712 | 104,953 |
| 従業員数 | 名 | 2,785 | 2,671 | 2,511 | 2,347 | 2,038 |

- (注) 1. 第81期から事業税の表示変更を行ったため、第79期から第80期の営業利益および経常利益は事業税額を加算して記載しています。
 2. 第82期から税効果会計を適用しています。
 3. 第83期から金融商品および退職給付に係る会計基準を適用しています。
 4. 印は損失を示しています。
 5. 1株当たり当期利益は期中平均株式数に基づき算出しています。

連結決算概要

事業別概況

当期の売上高は5,600億6百万円、営業利益が185億96百万円、経常利益は154億83百万円となりました。

特別利益の総額は117億44百万円で、その主な内訳は退職給付債務の積立不足額に充当した退職給付信託設定益77億27百万円や、東京都中央区所在の土地に対する定期借地権設定益20億40百万円などであり、一方、特別損失は207億24百万円で、退職給付会計基準変更時差異の一括償却額166億1百万円、金融商品会計の適用や時価の下落に伴う投資有価証券評価損11億90百万円などがあります。

以上により、当期純利益は40億20百万円となりました。

(注) 当期から、すべての子会社および関連会社を連結対象にしています。

事業別の売上高・営業利益 (単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 |
|---------|---------|--------|
| 低温物流事業 | 100,059 | 8,136 |
| 食品事業 | 465,702 | 10,891 |
| 不動産事業 | 10,277 | 6,908 |
| その他の事業 | 6,967 | 334 |
| 消去または全社 | 23,000 | 7,673 |
| 合計 | 560,006 | 18,596 |

低温物流事業

売上高 1,000億59百万円(前期比4.5%増収)
営業利益 81億36百万円(前期比0.6%減益)

国内

当社グループの保管型物流事業では、グループ営業力の強化を図り、お客さまに密着した営業活動を展開するとともに、物流品質の向上に努めた結果、大都市を中心に稼働率は前期を上回りました。また、荷役作業コストの低減と事務の効率化に取り組み、原価面での成果をあげることができました。IT(情報技術)革命への対応として、インターネットを利用したお客さまへの物流情報提供システムを開発し、保管商品の在庫や入出庫などの実績を提供するサービスを開始しました。

流通型物流事業では、量販店・食品卸を中心に物流業務の外注化が旺盛となるなか、ニーズにお応えした物流システム提案により、流通型物流サービスセンターを横浜市、川崎市、大阪市の3ヶ所に開設し、新たな取組みを開始することができました。

3年前よりスタートさせた「3PL(サードパーティロジスティクス)事業」は、物流ソリューションを提供する新規事業として、従来の保管型物流事業とのシナジー効果を発揮しつつ、ノウハウを蓄積してきました。最近では「物流業務プロセスの再設計」に加えて、調達から在庫、配送までをコントロールするSCM(サプライチェーン・マネジメント)の実現ニーズが高まってきたことから、平成12年11月に株式会社エヌ・ティ・ティ・データならびに伊藤忠商事株式会社と提携して新会社を設立し、低温物流事業の機能強化と成長のスピードアップをめざすことにしました。

低温輸配送事業につきましては、価格競争力向上のためのローコスト体制の構築や、幹線輸送機能の向上と高品質な輸配送・共同配送体制の強化に努める一方、保管型物流事業との連携による営業活動を積極的に展開しました。

欧州(オランダ・ドイツ)

増大する保管・配送需要のもと、欧州グループ各社は積極的な集荷活動を展開するとともに、オランダで2ヶ所の物流センターを開設しました。この結果、現地通貨ベースでは増収増益となりましたが、円ベースでは円高の影響により売上高・営業利益はともに前期を下回りました。



食品事業

売上高 4,657億2百万円(前期比3.2%減収)
営業利益 108億91百万円(前期比4.7%減益)

加工食品事業

家庭用冷凍食品では、当社の「甘えびシューマイ」が新鮮な甘えび原料と薄皮で透明な加工技術により高い評価を受け、シューマイ市場を大きく牽引する昨春最大のヒット商品となりました。また、当社独自の加工技術によりレンジで調理ができる「天然ぶりの照り焼き」や「さわらの西京焼き」などの焼き魚シリーズは、生活者の健康志向にマッチし、売場の活性化につながりました。「中高生のからあげチキン」、「ミニハンバーグ」、「えびとチーズのクリームグラタン」などの主力商品も、リニューアルの効果により順調に拡大しました。業務用は、「Restaurant Use ピラフ類」や衣に工夫を凝らした「手作り風ミニコロッケ」などの新商品が売上げに大きく寄与し、並行して進めているアイテムの絞り込みによる売上げ減少分をカバーして、全体的には順調な売上げとなりました。

レトルト食品・缶詰につきましては、業務用の「Restaurant Use カレー・ソース類」が好調に推移しましたが、輸入素材缶詰の取扱いを絞り込んだこともあり、全体の売上げは前期を下回りました。アセロラ飲料も、競争激化のなかで売上高は前期を下回りました。

なお、当社は、差別化された原料と低コスト・高品質の商品を提供できる国内外の優良パートナーとの取組みを開始する一方、生産性の低い生産拠点の統廃合による最適生産体制の構築を進めました。以上により、加工食品事業の売上高、営業利益はともに前期を上回りました。

水産品事業

当社グループ各社は、海外仕入先との関係を強化し、品質・加工度を高めたえび加工品・鮭加工品などの流通加工品を拡大するとともに、収益性の高い商品などへの選択と集中を進めた結果、取扱数量は前期を上回ることができました。しかしながら、消費者の低価格志向の影響を受けて販売価格が低下したため、売上高は前期を下回り、営業利益も利益商材の搬入量が減少したことから減益となりました。



不動産事業

売上高 102億77百万円(前期比25.5%増収)
営業利益 69億8百万円(前期比30.4%増益)

和歌山県和歌山市(23区画)や大阪府茨木市(17区画)などで建築条件付宅地分譲を実施し、合計51区画の売上げを計上することができました。賃貸事業につきましては、平成12年1月に住宅展示場と中古車販売施設を売却しましたが、平成12年3月から「京都ホテル(御池)」の賃貸を開始したことにより、増収増益となりました。また、東京都杉並区所在の販売用不動産などを売却し、資産の流動化にも努めました。



その他の事業

売上高 69億67百万円(前期比12.7%増収)
営業利益 3億34百万円(前期比41.8%増益)

当期は、東洋工機株式会社において配送センターの建設や食品冷凍設備工事などが増加し、前期に比べ増収増益となりました。

畜産品事業

狂牛病や口蹄疫、O-157の発生により、生活者の安全や安心に対する意識がますます高まるなかで、生活者を起点とした「おいしさ」、「安全」、「安心」、「健康」、「環境にやさしい」をコンセプトにした当社商品は顧客の安定化に寄与しましたが、輸入畜産物の慢性的な供給過剰により単価が下落したため、売上高は前期を下回りました。

なお、営業利益は、不採算商品のアイテムカットなどにより大幅に改善しました。

食品卸・小売事業等

株式会社コキワは、株式会社菱食との業務提携による基幹情報システムの再構築や主力物流センターの機能充実など事業基盤の強化を進めるとともに、新規顧客の開拓に努めましたが、流通業界再編の影響や販売単価の下落などもあって、売上高、営業利益はともに前期を下回りました。また、北米においては、食品の製造・販売子会社の売却により、売上高は減少しました。



連結決算概要

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 第83期 | | 科 目 | 第82期 | |
|--------------|--------------|--------------|-----------------|--------------|--------------|
| | 平成13年3月31日現在 | 平成12年3月31日現在 | | 平成13年3月31日現在 | 平成12年3月31日現在 |
| 資 産 の 部 | | | 負 債 の 部 | | |
| 流 動 資 産 | 130,983 | 152,487 | 流 動 負 債 | 157,186 | 143,615 |
| 現金及び預金 | 5,910 | 9,130 | 支払手形及び買掛金 | 50,026 | 46,006 |
| 受取手形及び売掛金 | 79,537 | 74,858 | 短期借入金 | 41,098 | 46,572 |
| ① 有 価 証 券 | | | コマーシャルペーパー | 8,000 | — |
| たな卸資産 | 37,088 | 34,509 | 長期借入金（1年以内返済） | 9,585 | 10,840 |
| 繰延税金資産 | 1,142 | 1,399 | 社債（1年以内償還） | 20,000 | 15,191 |
| その他の流動資産 | 7,524 | 11,812 | 未払法人税等 | 3,437 | 2,910 |
| 貸倒引当金 | 219 | 704 | その他の流動負債 | 25,037 | 22,092 |
| 固 定 資 産 | 236,786 | 216,758 | 固 定 負 債 | 120,043 | 143,392 |
| 有形固定資産 | 172,943 | 178,716 | 社 債 | 35,000 | 55,512 |
| 建物及び構築物 | 99,253 | 104,509 | 転換社債 | 6,307 | 6,307 |
| 機械装置及び運搬具 | 22,083 | 23,341 | 長期借入金 | 52,713 | 60,416 |
| 土地 | 45,631 | 46,201 | 繰延税金負債 | 2,345 | 757 |
| 建設仮勘定 | 4,140 | 2,791 | ③ 退職給付引当金 | 4,189 | — |
| その他の有形固定資産 | 1,834 | 1,873 | 退職給与引当金 | — | 1,159 |
| 無形固定資産 | 6,312 | 5,436 | 役員退職慰労引当金 | 1,133 | 919 |
| 投資その他の資産 | 57,531 | 32,604 | 連結調整勘定 | 55 | — |
| ①② 投資有価証券 | 44,006 | 20,420 | その他の固定負債 | 18,299 | 18,322 |
| 繰延税金資産 | 1,861 | 827 | 負 債 合 計 | 277,229 | 287,008 |
| その他の投資その他の資産 | 12,369 | 12,482 | 少数株主持分 | 1,145 | 990 |
| 貸倒引当金 | 706 | 1,126 | 資 本 の 部 | | |
| 為替換算調整勘定 | 1,378 | 1,378 | 資 本 本 金 | 30,307 | 30,307 |
| 資 産 合 計 | 367,770 | 370,623 | 資本準備金 | 23,704 | 23,704 |
| | | | 連結剰余金 | 30,701 | 28,612 |
| | | | ② その他有価証券評価差額金 | 5,348 | — |
| | | | 為替換算調整勘定 | 665 | — |
| | | | 自己株式 | 1 | 0 |
| | | | 資 本 合 計 | 89,395 | 82,624 |
| | | | 負債、少数株主持分及び資本合計 | 367,770 | 370,623 |

（注）1. 有形固定資産の減価償却累計額 170,548百万円
2. 保証債務 6,542百万円

3. 1株当たり当期純利益 12円93銭（期中平均株式数による）
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

【金融商品会計の適用】

① 当期首時点で保有する有価証券の保有目的を検討し、短期運用目的の有価証券9百万円はその他の流動資産に含め、その他の有価証券160億38百万円は投資有価証券に含めて表示しています。

② その他有価証券の取得価額と当期末時価評価額との差額92億64百万円および持分法適用会社が計上したその他有価証券評価差額金の持分相当額2百万円を投資有価証券に計上しました。これに伴い、税効果会計を適用して繰延税金負債に38億92百万円を、少数株主持分に26百万円を、その他有価証券評価差額金に53億48百万円をそれぞれ計上しています。

【退職給付会計の適用】

③ 従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当期末において発生していると認められる額を計上しています。なお、会計基準変更時の差異額166億1百万円については、その全額を特別損失に計上しました。

ポイント

連結 貸借対照表

ポイント

連結損益計算書

【売上高】

① 連結子会社の(株)ユキワがリポート収入・支出等の会計処理を変更したことから、前期と同一の基準によった場合に比べ、売上高は92億97百万円減少しました。なお、これに伴い、売上原価は66億46百万円、販売費は26億50百万円それぞれ減少しています。

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 第83期 | | 第82期 | |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成12年4月1日から平成13年3月31日まで | 平成11年4月1日から平成12年3月31日まで | 平成12年4月1日から平成13年3月31日まで | 平成11年4月1日から平成12年3月31日まで |
| ① 売 上 高 | 560,006 | 569,482 | 560,006 | 569,482 |
| 売 上 原 価 | 456,121 | 465,641 | 456,121 | 465,641 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 | 85,287 | 86,866 | 85,287 | 86,866 |
| 営 業 利 益 | 18,596 | 16,973 | 18,596 | 16,973 |
| 営 業 外 収 益 | 2,912 | 3,633 | 2,912 | 3,633 |
| 営 業 外 費 用 | 6,025 | 8,895 | 6,025 | 8,895 |
| 経 常 利 益 | 15,483 | 11,711 | 15,483 | 11,711 |
| 特 別 利 益 | 11,744 | 16,554 | 11,744 | 16,554 |
| 特 別 損 失 | 20,724 | 20,286 | 20,724 | 20,286 |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益 | 6,503 | 7,979 | 6,503 | 7,979 |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 5,543 | 4,692 | 5,543 | 4,692 |
| 法 人 税 等 調 整 額 | 3,021 | 1,158 | 3,021 | 1,158 |
| 少 数 株 主 利 益 | 40 | 118 | 40 | 118 |
| 当 期 純 利 益 | 4,020 | 4,326 | 4,020 | 4,326 |

連結剰余金計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 第83期 | | 第82期 | |
|---|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| | 平成12年4月1日から平成13年3月31日まで | 平成11年4月1日から平成12年3月31日まで | 平成12年4月1日から平成13年3月31日まで | 平成11年4月1日から平成12年3月31日まで |
| 連 結 剰 余 金 期 首 残 高 | 28,612 | 25,856 | 28,612 | 25,856 |
| 連 結 剰 余 金 期 首 残 高 | 28,612 | 26,555 | 28,612 | 26,555 |
| 過 年 度 税 効 果 調 整 額 | — | 698 | — | 698 |
| 連 結 剰 余 金 増 加 高 | 396 | 572 | 396 | 572 |
| 連 結 子 会 社 の 増 加 に よ る 増 加 額 | 343 | 536 | 343 | 536 |
| 持 分 法 適 用 会 社 の 増 加 に よ る 増 加 額 | 53 | 36 | 53 | 36 |
| 連 結 剰 余 金 減 少 高 | 2,328 | 2,142 | 2,328 | 2,142 |
| 配 当 金 | 1,865 | 1,865 | 1,865 | 1,865 |
| 取 締 役 賞 与 金 | 171 | 76 | 171 | 76 |
| 連 結 子 会 社 の 増 加 に よ る 減 少 額 | 285 | 200 | 285 | 200 |
| 持 分 法 適 用 会 社 の 増 加 に よ る 減 少 額 | 2 | — | 2 | — |
| 持 分 法 適 用 会 社 の 連 結 財 務 諸 表 作 成 中 止 に 伴 う 減 少 額（注1） | 4 | — | 4 | — |
| 当 期 純 利 益 | 4,020 | 4,326 | 4,020 | 4,326 |
| 連 結 剰 余 金 期 末 残 高 | 30,701 | 28,612 | 30,701 | 28,612 |

（注）1. 持分法適用会社である(株)京都ホテルは、重要な連結対象子会社なくなったため、当期から、連結財務諸表の作成を中止しております。
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結決算概要

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 第83期 | 第82期 | 科 目 | 第83期 | 第82期 |
|---------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| | 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで | 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで | | 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで | 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで |
| ① 営業活動によるキャッシュ・フロー | | | ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 6,503 | 7,979 | 短期借入金の純増減額 | 5,347 | 13,296 |
| 減価償却費 | 14,003 | 16,547 | コマーシャルペーパーの純増減額 | 8,000 | 15,000 |
| 売上債権の増減額 | 4,589 | 1,895 | 長期借入れによる収入 | 3,073 | 27,794 |
| たな卸資産の増減額 | 2,380 | 2,697 | 長期借入金の返済による支出 | 12,109 | 4,682 |
| 仕入債務の増減額 | 3,998 | 1,407 | 社債の発行による収入 | | 10,000 |
| その他 | 16,032 | 2,675 | 社債の償還による支出 | 15,466 | 10,000 |
| （小計） | 33,567 | 29,412 | 配当金の支払額 | 1,799 | 1,865 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,212 | 1,079 | その他 | 296 | 595 |
| 利息の支払額 | 5,056 | 5,345 | （計） | 23,946 | 6,454 |
| 法人税等の支払額 | 5,067 | 3,042 | 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 339 | 364 |
| その他 | 4,083 | 7,916 | 現金及び現金同等物の増減額 | 3,382 | 410 |
| （計） | 28,739 | 14,187 | 新規連結に伴う現金及び現金同等物増加 | 247 | 1,582 |
| ② 投資活動によるキャッシュ・フロー | | | 現金及び現金同等物の期首残高 | 8,957 | 7,785 |
| 有価証券の取得による支出 | | 1,375 | 現金及び現金同等物の期末残高 | 5,823 | 8,957 |
| 有価証券の売却による収入 | | 12,026 | | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 9,500 | 31,407 | | | |
| 有形固定資産の売却による収入 | 1,294 | 10,030 | | | |
| 投資有価証券の取得による支出 | 2,057 | 180 | | | |
| 投資有価証券の売却による収入 | 3,855 | 154 | | | |
| 短期貸付金の純増減額 | 117 | 807 | | | |
| 長期貸付けによる収入 | 36 | 522 | | | |
| 長期貸付金の回収による収入 | 182 | 193 | | | |
| その他 | 2,369 | 2,494 | | | |
| （計） | 8,514 | 7,778 | | | |

（注）現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表（要旨）に掲記されている科目の金額との関係

| | |
|-----------------|----------|
| 現金及び預金期末残高 | 5,910百万円 |
| 預入期間3ヶ月超の定期預金 | 94百万円 |
| 償還期限3ヶ月以内の短期投資 | 9百万円 |
| 短期借入金に含まれる当座借越額 | 3百万円 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 5,823百万円 |

ポイント

連結 キャッシュ・フロー 計算書

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当期は営業利益、経常利益ともに過去最高益となる一方、退職給付会計や金融商品会計の適用に伴い、非資金費用（退職給付債務積立不足の一括償却、投資有価証券評価損など）を計上したことなどから、前期に比べ145億51百万円増加し、287億39百万円の収入となりました。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当期は大型の設備投資は行わなかったものの、有価証券や有形固定資産の売却収入が減少したことなどから、85億14百万円の支出となりました。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当期は社債の償還や長期借入金の返済など有利子負債の圧縮を進めたことから、239億46百万円の支出となりました。なお、連結有利子負債の期末残高は、1,727億4百万円で、前期末に比べ221億35百万円削減しました。

グループ中期経営計画の概要

中期経営計画（2001年度～2003年度）は、激変する経営環境のなか、常に自己変革を続けて成長していく企業集団をめざして策定しています。計画の根底を支えるグループミッション・ビジョンと、具体的な経営課題をご紹介します。

グループミッション・ビジョン

ミッション 暮らしを見つめ、人々の心の満足を追求することにより、健康で豊かな生活の実現に貢献します。

ビジョン 卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、皆さまにご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として社会とともに成長します。

グループ中期経営計画

課題1

低温物流事業・食品事業をコア事業と位置付けた成長戦略
食品の成長分野で事業を展開している「低温物流事業」と「食品事業」をコア事業と位置付けます。低温物流事業では、冷蔵倉庫の機能を強化するとともに、旺盛な物流改革ニーズへの対応として3PL事業の展開や小売業物流センターの受託拠点数の拡大を図ります。食品事業の中軸となる加工食品では、「チキン」「米飯」「中華」の3つの成長カテゴリーに経営資源を集中させます。

課題2

資本効率の追求と資本構成の適正化
既存の事業基盤による機能追求と収益機会の拡大、大型の資本投下を必要としない事業への取組みにより、資本回転率を改善させます。設備投資は減価償却費の範囲内に収め、純現金収支を活用して有利子負債を削減します。

課題3

お客さま起点の経営による競争優位の達成
「お客さまの価値判断で企業価値は決定する」という考え方を経営の出発点とし、お客さまの視点を生かした経営の実践によって各事業での競争優位を達成します。

課題4

事業ドメインの再編と事業ユニット制の導入
お客さまの視点に立った市場分析に基づきグループ企業を事業ドメイン別に再編し、事業運営力の強化を図ります。特にコア事業の低温物流事業および食品事業につきましては、ミッション・成果目標と事業責任を明確にするため、事業ユニット（グループ内カンパニー）制を導入します。

くらしの笑顔を増やし隊

ニチレイグループ当社及び113社（平成13年3月31日現在）

当社グループは、当社、子会社100社および関連会社13社で構成され、低温物流、食品、不動産、その他の4事業ならびにこれらに付帯する業務を展開しています。各事業に属している子会社・関連会社数を記載し、当社グループの事業概要をご紹介します。

低温物流事業

国内49社

低温保管
サードパーティロジスティクス(3PL)
物流コンサルティング、物流業務受託運営などを行っています。
低温輸配送
流通加工(凍結・解凍・加工など)
配送センター(TC)
配送センター(TC)
角氷、包装氷の製造・販売

海外9社

低温保管
低温輸配送
流通加工(凍結・解凍・加工など)
配送センター(TC)
統括管理(欧州)
資金調達(欧州)

食品事業

国内33社

加工食品の製造・加工・販売
製造作業代行
水産品の加工・販売
加工作業代行
畜産品の加工・販売
加工作業代行
食品卸・小売など

海外12社

加工食品の製造・加工・販売
アセロラの研究開発
水産品の加工・販売
農・水・畜産物の買付け代行
畜産物の加工・販売

不動産事業

国内2社

オフィスビル等の賃貸
宅地の分譲
不動産の賃貸・管理など

その他の事業

国内7社

診断薬・化粧品原料の製造・販売
蘭等の生産・販売
保険代理店
建築工事・設計
その他

国内1社

全社共通
人事・総務業務代行

単独決算概要

単独貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 第83期 | | 科 目 | 第82期 | |
|----------|--------------|--------------|-----------------|--------------|--------------|
| | 平成13年3月31日現在 | 平成12年3月31日現在 | | 平成13年3月31日現在 | 平成12年3月31日現在 |
| 資 産 の 部 | | | 負 債 の 部 | | |
| 流 動 資 産 | 98,714 | 119,094 | 流 動 負 債 | 112,317 | 89,479 |
| 現金・預金 | 2,079 | 3,908 | 支払手形・買掛金 | 28,755 | 27,372 |
| 受取手形・売掛金 | 59,298 | 55,480 | 短期借入金 | 25,344 | 21,805 |
| ① 有価証券 | | 20,569 | ③ コマニシャルペーパー | 8,000 | |
| 棚卸資産 | 27,519 | 26,870 | 社債（1年以内償還） | 20,000 | 10,000 |
| その他 | 10,160 | 13,865 | 長期借入金（1年以内返済） | 3,605 | 4,305 |
| 貸倒引当金 | 343 | 1,599 | 引当金 | | 4,223 |
| 固 定 資 産 | 172,029 | 145,525 | そ の 他 | 26,612 | 21,772 |
| 有形固定資産 | 102,806 | 107,488 | 固 定 負 債 | 69,265 | 91,833 |
| 建物 | 54,484 | 57,946 | 社 債 | 35,000 | 55,000 |
| 機械装置 | 13,328 | 14,622 | 転換社債 | 6,307 | 6,307 |
| 土地 | 27,811 | 28,465 | 長期借入金 | 6,696 | 10,294 |
| その他 | 7,181 | 6,454 | 引当金 | 1,065 | 549 |
| 無形固定資産 | 3,316 | 1,851 | 預り保証金 | 18,380 | 18,437 |
| 投資等 | 65,905 | 36,185 | その他 | 1,815 | 1,245 |
| ①② 投資その他 | 66,577 | 36,505 | 負 債 合 計 | 181,583 | 181,313 |
| 貸倒引当金 | 671 | 319 | 資 本 の 部 | | |
| 資 産 合 計 | 270,743 | 264,619 | 資 本 金 | 30,307 | 30,307 |
| | | | 法 定 準 備 金 | 29,315 | 29,122 |
| | | | 剰 余 金 | 24,324 | 23,876 |
| | | | （うち当期利益） | （ 2,566 ） | （ 2,407 ） |
| | | | ② その他有価証券評価差額金 | 5,212 | |
| | | | 資 本 合 計 | 89,160 | 83,306 |
| | | | 負 債 及 び 資 本 合 計 | 270,743 | 264,619 |

（注）1. 有形固定資産の減価償却累計額 124,189百万円
2. 保証債務 38,094百万円

3. 1株当たりの当期利益 8円25銭（期中平均株式数による）
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ポイント 単独 貸借対照表

【金融商品会計の適用】

- ① 当期首時点で保有する有価証券の保有目的を検討し、有価証券154億94百万円を投資有価証券勘定として、投資その他に含めて表示しています。
- ② その他有価証券の取得価額と当期末時価評価額との差額89億71百万円を投資有価証券勘定に計上するとともに、税効果会計を適用して繰延税金負債に37億59百万円を、その他有価証券評価差額金に52億12百万円をそれぞれ計上しています。

【社債（1年以内償還）】

- ③ 第11回無担保社債200億円は2001年7月が償還のため、前期までの固定負債から流動負債として表示しています。なお、前期末のユーロ円建普通社債100億円は2000年11月に償還を行いました。

単独損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

| 科 目 | 第83期 | | 第82期 | |
|---------------|-------------------------|-------------------------|------|--|
| | 平成12年4月1日から平成13年3月31日まで | 平成11年4月1日から平成12年3月31日まで | | |
| ① 売上 | 412,855 | 409,424 | | |
| 売上原価 | 340,004 | 339,224 | | |
| 販売費及び一般管理費 | 61,018 | 59,233 | | |
| 営業利益 | 11,831 | 10,966 | | |
| 営業外収益 | 2,825 | 2,895 | | |
| 営業外費用 | 3,354 | 6,346 | | |
| 経常利益 | 11,302 | 7,515 | | |
| ② 特別利益 | 11,933 | 16,780 | | |
| ③ 特別損失 | 18,827 | 19,736 | | |
| 税引前当期利益 | 4,409 | 4,558 | | |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,999 | 3,517 | | |
| 法人税等調整額 | 2,157 | 1,366 | | |
| 当期繰越利益 | 2,566 | 2,407 | | |
| 前期繰越利益 | 2,050 | 2,063 | | |
| 税効果会計適用に伴う調整額 | | 4,316 | | |
| 中間配当額 | 932 | 932 | | |
| 利益準備金積立額 | 93 | 93 | | |
| 当期末処分利益 | 3,591 | 7,760 | | |

（注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

利益処分

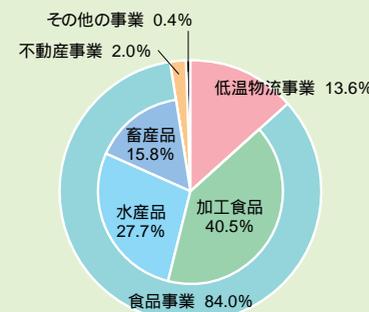
（単位：円）

| 項 目 | 金 額 |
|------------------|---------------|
| 当期末処分利益 | 3,591,414,201 |
| 特別償却準備金取崩額 | 93,741,649 |
| 固定資産圧縮積立金取崩額 | 282,773,925 |
| 固定資産圧縮特別勘定積立金取崩額 | 342,672,942 |
| 合 計 | 4,310,602,717 |
| これを次のとおり処分いたします。 | |
| 利益準備金 | 101,000,000 |
| ① 利益配当金（1株につき3円） | 932,546,781 |
| 取締役賞与金 | 70,000,000 |
| 特別償却準備金 | 1,054,988 |
| 固定資産圧縮積立金 | 280,042,000 |
| 固定資産圧縮特別勘定積立金 | 594,123,709 |
| 別途積立金 | 300,000,000 |
| 合 計 | 2,278,767,478 |
| 次期繰越利益 | 2,031,835,239 |

ポイント 単独損益計算書

【売上高】

- ① 当期の事業別売上高構成比は次のとおりです。



【特別利益】

- ② 主な内訳は、退職給付債務の積立不足額に充当するための退職給付信託設定益77億27百万円や、東京都中央区所在の土地に係る定期借地権設定益20億40百万円です。

【特別損失】

- ③ 主な内訳は、退職給付会計の導入により生じた会計基準変更時差異の一括償却額141億41百万円、金融商品会計の適用や保有株式の時価の下落に伴う投資有価証券評価損20億70百万円です。

ポイント 利益処分

【利益配当金】

- ① 1株につき3円（年間6円）の配当とさせていただきます。
なお、平成12年12月5日に932,545,860円（1株につき3円）の中間配当を実施いたしました。

KEYWORD

ニチレイならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介します。

炒飯 確かな素材と高度加工技術でつくるベーシック商品

チキン加工品や中華惣菜と同じく、当社加工食品の戦略的なポジションを有する米飯カテゴリーでは、ホクレンとの間で冷凍適性の高い米飯を開発するなど、有機的な提携を進めています。ホクレンは、人工衛星などによる情報解析から土壌の特性にあった米の栽培方法の研究を続け、低農薬で北海道の気候に適した栽培に成功。そして、最適な保存方法や徹底した品質管理を行っています。当社は、このホクレンとの長年の取引を通じて、もっとも安全で高品質な原料米を調達できる体制を確立しました。

この生産者の見える厳選された素材（米）と当社の調理加工技術が出会い、炒飯のまったく新しいおいしさを実現しました。

ホクレン農業協同組合連合会



今春新発売した「本格炒め炒飯」は、油の量や火力、具材を入れるタイミングなど、すべてにプロが調理する本格炒飯の工程を忠実に再現しました。（製法特許出願中）

家庭の火力ではなかなか作れない本格的な炒飯のおいしさや食感が、レンジ調理で再現できるように仕上げています。

なお、業務用米飯では、ホクレンとの取組みを通じて培った信頼関係から、原料の調達という領域を超え、昨年10月にはホクレン三笠食品工場（北海道三笠市）に米飯製造ラインを新設し、最新技術を駆使した生産体制を整えました。

今回のキーワード 食のフロンティアカンパニー

グループ丸で取り組む「中期経営計画(2001年度～2003年度)」のキーワードです。社会に広く有意義な食品上位企業としての認知度を高め、これからも多彩な新商品をご提供していきます。

キャノーラ油 ～ 副原料にもこだわりを

近年、『食』に対する健康ニーズがますます高まってきており、市場調査（当社調べ）において「こだわりの油を使った冷凍食品は魅力に思う」というお客さまの比率が、全体の85%という非常に高い数値を示しています。食用油マーケットが全体的に伸び悩みの傾向にあるなか、健康志向に合ったキャノーラ油の市場規模は最近4年間で約2.3倍という飛躍的な拡大を遂げています。

そこで当社は、ヘルシーオイル・キャノーラ油を揚げ油に採用した冷凍食品5アイテムを今春発売しました。また、プロモーションの一環として、キャノーラ油「コロッケ新世紀編（藤村俊二・出演）」のCMを全国放映するとともに、キャノーラ油の先駆者であり、シェアNO.1を誇る日清製油株式会社と共同で、消費者キャンペーンや店頭での関連販売を実施しました。



新しくなった アセロラドリンク

カリブ諸島原産、真っ赤なアセロラの天然ビタミンCがたっぷり含まれた健康習慣飲料・アセロラドリンク。

すっきりキレイのよい酸味と爽やかなのどごしはそのままに、アセロラ果実の魅力さをさらに引き出す新製法でおいしさを一段とグレードアップしました。

改良のポイントは、“果実本来のおいしさ”にあくまでもこだわったこと。新製法で搾ったフレッシュ感のある果汁を使用してアセロラ果実の豊かな風味をパッケージしました。

健康維持や美容などに不可欠なビタミンC、その効能にますます注目が集まっています。ご好評のアセロラドリンクがお客さまに長くご愛飲いただけるよう、健康価値と飲み飽きないおいしさをもった健康習慣飲料をめざして、これからも一層品質の向上に努めます。



INTRODUCTION

ご好評の商品をご紹介します。



本格炒め炒飯



高温に熱したたっぷりの油に溶き卵を流し込み、ふっくらとしてきたところでタイミングよくご飯を入れ、強火でパラッと炒めました。ご飯にからまった卵の香ばしさと、そのおいしさを引き立てる焼豚とねぎ。シンプルな具材で仕上げた飽きのこない本格炒飯です。

元気畑の有機野菜 ほうれん草



2001年のJAS法改正による有機野菜の基準の明確化に合わせ、新ブランド「元気畑の有機野菜」をシリーズで発売しました。既存の7品（米国、豪州産）に、中国で開発輸入したほうれん草など3品を加えました。

お弁当にグッド! やわらかイカの磯辺揚げ



肉厚でやわらかいイカをほんのり和風味でカラッと揚げました。衣の青のりも香りよく、お弁当だけでなく、おつまみにもぴったり。小分けトレイなので必要なだけ電子レンジ調理ができます。

焼おにぎり リニューアル



深い味わいと豊かな香りをもつ「底引きたまり醤油」を使用。にぎり加減、焼き加減にこだわって、より一層香ばしくなりました。

野菜たっぷり ライスサラダ



お米、アスパラガス、たまねぎ、ほうれん草、ピーマン、いんげん、きぬさや、くわい、レーズン 9種類の野菜がたっぷり入ったサラダ風のピラフです。

お弁当にグッド! 天然ぶりの照り焼き



冷めても香ばしくジューシー! と大好評の天然ぶりの照り焼きがリニューアルして再登場。おいしそうな照り焼き感がぐんとアップし、ますます食欲をそそります。丁寧に小骨を取り除いてあるのでお子さまのお弁当にも安心です。

おいしさひと工夫

当社の商品を使った調理例をご紹介します。



【シュリンプライスサラダ】

【材料2人分】

赤ピーマン1/2個、緑ピーマン1個、きゅうり1/2本、セロリ1/4本、グリーンカール(サラダ菜またはレタス)6枚、レモン汁大さじ2、塩・こしょう少々
ニチレイえびピラフ500g(1袋)



【作り方】

- ① えびピラフはレンジで加熱し、熱いうちにレモン汁をかけておきます。赤ピーマン、緑ピーマン、きゅうり、セロリは5ミリ角に切り、塩少々をまぶしてしんなりさせておきます。グリーンカールは洗って冷水につけ、パリッとさせておきます。の野菜の水気を切り、のピラフに加え、こしょう少々とともに混ぜます。器にのグリーンカールを水気を切って敷き、を盛りつけて出来上がり。



【ほうれん草のポタージュ】

【材料2人分】

玉ねぎ1/2個、ブイヨン300cc、生クリーム100cc、塩・こしょう・バター適宜
ニチレイほうれん草300g(1袋)



【作り方】

- ① ほうれん草はレンジで解凍して水気を絞り、玉ねぎは薄切りにします。鍋にバター大さじ1を溶かし、玉ねぎを弱めの中火で炒めます。の鍋にブイヨンを加えて柔らかくなるまで煮て、粗熱が取れたら、解凍した①のほうれん草とともに、なめらかになるまでミキサーにかけます。鍋に戻して弱めの中火にかけ、生クリームでのぼしながら、塩・こしょうで味を調えて出来上がり。冷たくしてもおいしく召し上がれます。





株式会社ニチレイフーズ誕生

生産体制の強化・再構築の一環として
「愛情」をテーマに掲げる主力生産子会社を設立しました。

株式会社ニチレイフーズは、ニチレイの基幹事業である食品事業（特に加工食品事業）の生産機能を強化するために設立されました。ニチレイの自営であった船橋、高槻および博多の3食品工場を分社化・統合し、本年4月より事業を開始しています。さらに2002年4月には、主力生産拠点4社も統合する予定です。

株式会社ニチレイフーズの設立目的および期待される効果は次のとおりです。

品質水準の向上と生産コストの低減

ニチレイがこだわる戦略カテゴリーを効率的に大量生産し、高い収益効果を実現することでニチレイグループが世界の競合相手に打ち勝ちながら成長・発展することを目的とします。

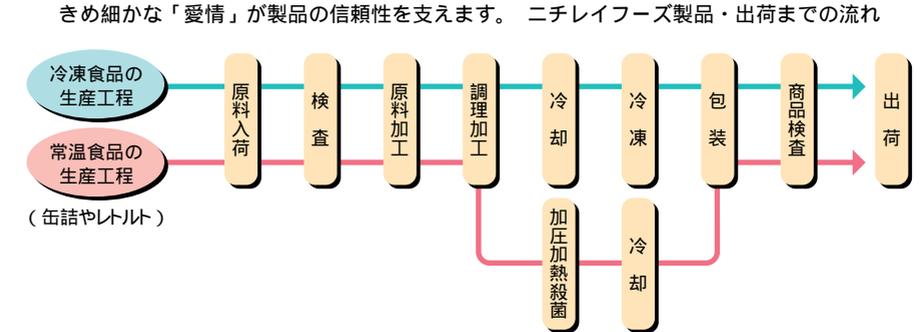
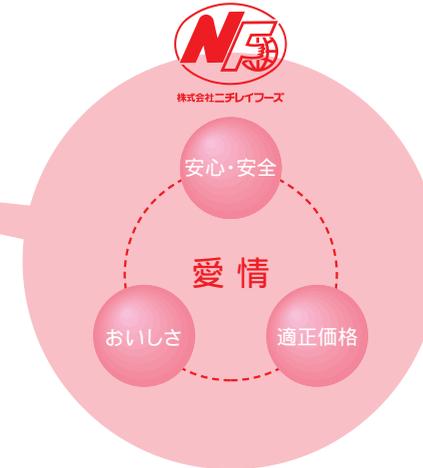
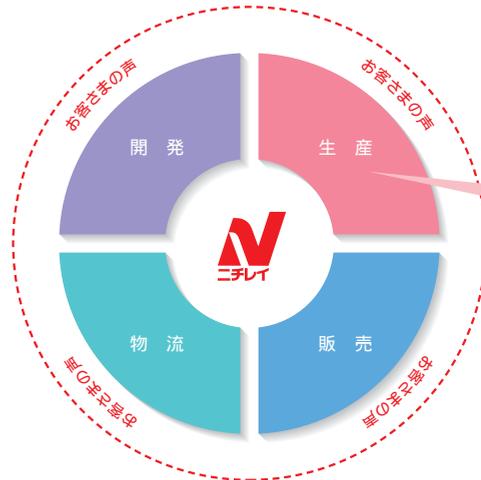
<参考> 現在ニチレイグループでは、個々の生産機能の見直しを図ることで生産工場を5つのタイプ（原料優位、小ロット小まわり、手作りでローコスト、固有技術でバラエティー化、戦略カテゴリーを効率的に大量生産）に分類し、経営資源の集中と有効活用を促進しています。

2003年度製造コスト5%削減

集約・統合により、品質管理水準を一段と向上させるとともに、3年後の2003年度には、製造コストを1999年度対比で5%削減することを目標としています。

世界基準の様々な技術強化

生産管理、生産技術、原材料購買、商品開発、品質管理、環境保全においても世界一級をめざします。



株式会社ニチレイフーズ会社概要

| | |
|--------|--|
| 会社名 | 株式会社ニチレイフーズ |
| 本社所在地 | 〒104-8402 東京都中央区築地6丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル14階 TEL.03-3248-2168 FAX.03-3248-2160 |
| 会社設立日 | 2000年12月20日 |
| 資本金 | 3億円（株式会社ニチレイ100%出資） |
| 売上高 | 約400億円（2002年度予想） |
| 年間生産能力 | 約10万3千トン（2002年度予想） |
| 年間生産数量 | 約8万4千トン（2002年度予想） |
| 従業員数 | 社員数約240名 作業受託会社社員460名(2002年度予想) |
| 事業内容 | 1. 冷凍食品の製造、加工および販売 2. レトルト食品および缶詰の製造、加工および販売 3. チルド食品の製造、加工および販売 4. 前各号に付帯する一切の業務 |



代表取締役社長
河合義雄

（株）ニチレイフーズは、全国規模の生産に特化した企業として常に「愛情」を忘れることなく、お客さまに満足していただける「安心・安全」「おいしさ」「適正価格」の商品づくりと「環境への配慮」に最大限の努力を惜しまない会社でありつづけることをお約束いたします。

従業員一人ひとりが時代の流れをつかみ、さらに技術力を磨き、果敢に変革する意欲を持ちつづけるとともに、それを支援する環境づくりを推進し、世界水準をめざし力強く成長していきます。

TOP MESSAGE

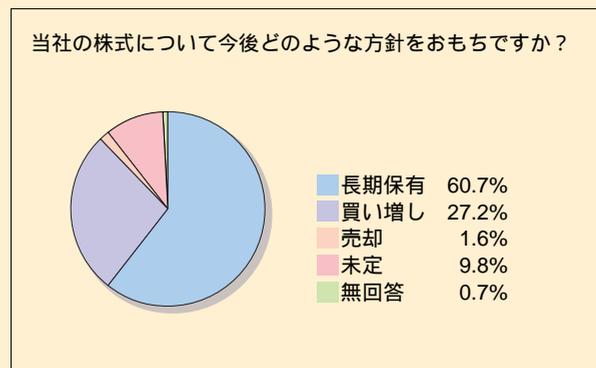
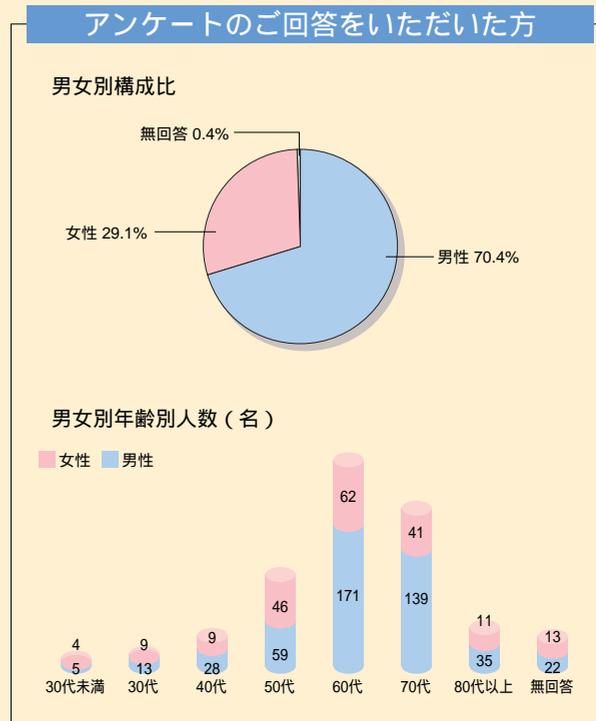


Q & A

アンケートでは毎回たくさんのご意見や激励のお言葉をいただき、誠にありがとうございます。

株主の皆さまのお声はニチレイの大切な財産であり、発展の源です。このコーナーを株主の皆さまとの貴重なコミュニケーションの場として、活用させていただきます。

今後とも、ニチレイへの一層のご支援とともに、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。



（第83期中間事業報告書にて実施した集計結果に基づいています。）



ニチレイグループの今後の成長戦略をおしえてください。



当社グループは、資本効率の改善を引き続き重要な課題として認識し、基幹事業の収益力を強化しつつ、お客さまの視点に立った事業展開を進めていきます。

【低温物流事業】

そのコアコンピタンスである「食品の川上から川下までの低温物流ノウハウ」を磨きあげるとともに、資本効率の向上をめざします。3PL事業^{*1}や流通型事業^{*2}では、大型の資本投下を必要としない事業を積極的に展開していきます。また、国内最大の冷蔵倉庫ネットワークと拠点間輸配送網を事業基盤として有する保管型事業は、グループ各社を含めた地域内最適運営体制を構築することにより、高品質な物流サービスの提供とローコスト化の実現を推進します。

*1 お客さまに対して受発注・在庫管理、情報化までの包括的な物流改革を提案し、一括して物流業務を受託する事業。

*2 量販店や外食業者などに対して配送センターの機能を提供する事業。

【食品事業】

加工食品事業は、「高度な加工技術と差別化された素材（水産品・畜産品）」という強みを活かし、利益率、成長率の高い商品カテゴリーの売上高を大きく伸ばします。さらに、大型生産ラインによる大量生産型商品やローコスト手作り商品などのタイプ別に生産拠点の再配置を進めることにより生産効率を改善し、生産原価の低減を追求します。水産品・畜産品の素材事業では、生活者の求める特長ある素材の提供や得意先のニーズに応える豊富な品揃えなど、商品政策・販売政策の両面で加工食品事業とのシナジー効果を発揮していきます。また、市況リスクの軽減、商品回転率の向上などに努めて収益の安定化を図ります。



経営管理組織はどのように変わったのですか？



当社は、コーポレートガバナンスの充実に関し、激変する経営環境に迅速かつ的確に対応するため、代表取締役2名体制とするとともに、執行役員制度を導入しました。これにより企業経営（マネジメント）と企業統治（ガバナンス）を明確に区分して、意思決定の迅速化と業務運営の効率化

を達成し、かつ、経営監督機能を強化いたします。

また、倫理委員会のもと企業倫理の徹底に取り組む一方、リスクマネジメント委員会を設置し、事件・事故等の未然防止、発生時対応、収束時対応のため、ニチレイグループ全体を対象にしたリスクマネジメントシステムの再構築を進めています。

株式の状況 (平成13年3月31日現在)

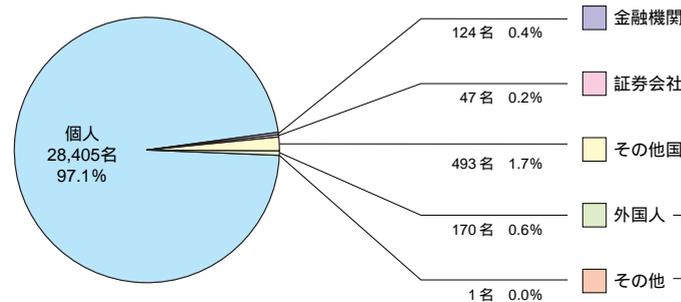
会社が発行する株式の総数…………… 720,000,000株
 発行済株式の総数…………… 310,851,065株
 1単位の株式数…………… 1,000株
 株主数…………… 29,240名

大株主

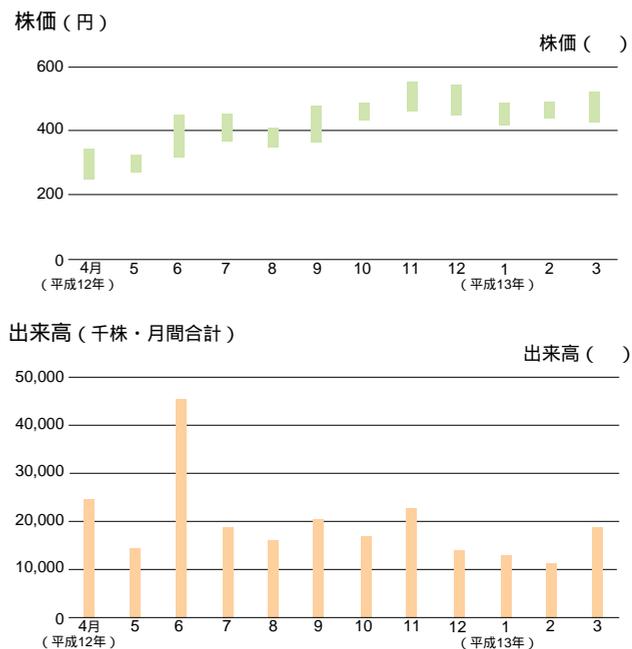
| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|------------------------------|---------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 22,991 | 7.4 |
| 日本生命保険相互会社 | 17,334 | 5.6 |
| 株式会社富士銀行 | 13,655 | 4.4 |
| 株式会社東海銀行 | 10,945 | 3.5 |
| 日産火災海上保険株式会社 | 9,968 | 3.2 |
| 三菱信託銀行株式会社(信託口) | 7,710 | 2.5 |
| みずほ信託銀行株式会社(年金信託口) | 7,035 | 2.3 |
| 東洋信託銀行株式会社(信託勘定A口) | 5,708 | 1.8 |
| ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー株式会社 | 5,566 | 1.8 |
| 株式会社日本興業銀行 | 5,514 | 1.8 |

(注) 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

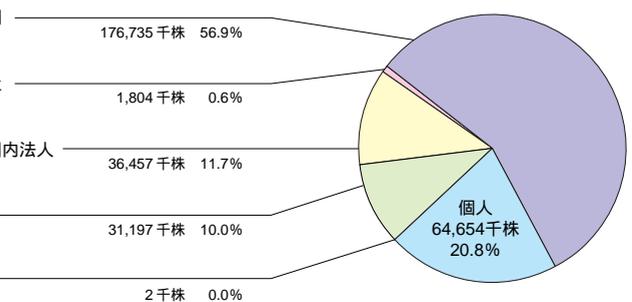
所有者別株主数分布状況



株価チャート



所有者別株式数分布状況



会社概要 (平成13年6月27日現在)

社名 株式会社ニチレイ
 所在地 東京都中央区築地六丁目19番20号
 ニチレイ東銀座ビル
 設立 昭和17年12月

支社

北海道支社 〒060-0010 札幌市中央区北10条西20-2-20
 ☎(011)631-0178
東北低温物流支社 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1
 ☎(022)711-2101
東北営業支社 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1
 ☎(022)711-2101
関東低温物流支社 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7
 ☎(03)3297-4501
関東営業支社 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7
 ☎(03)3297-4501
中部低温物流支社 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16
 ☎(052)683-2551
中部営業支社 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16
 ☎(052)683-2551
関西低温物流支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-8
 ☎(06)6263-2555
関西営業支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-8
 ☎(06)6263-2555
九州低温物流支社 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5
 ☎(092)841-6700
九州営業支社 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5
 ☎(092)841-6700

会計監査人 監査法人 太田昭和センチュリー
 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号
 日比谷国際ビル

役員

代表取締役 会長 大戸 武 元
 代表取締役 社長 浦野 光 人
 取締役 専務執行役員 福田 厚 司
 取締役 専務執行役員 横田 浩 二
 取締役 専務執行役員 榎 敏 秀
 取締役 常務執行役員 原 直 弘
 取締役 常務執行役員 村上 英 彦
 取締役 常務執行役員 前嶋 弘 一
 取締役 常務執行役員 千葉 充 幸
 取締役 常務執行役員 荒 昌 裕
 取締役 執行役員 遠山 昌 利
 取締役 執行役員 椎橋 治 男
 取締役 執行役員 笠井 剛
 取締役 執行役員 秋山 修
 取締役 執行役員 相馬 義比古
 常任監査役(常勤) 後藤 一 彦
 監査役(常勤) 青木 信 吾
 監査役(非常勤) 河上 和 雄
 監査役(非常勤) 内野 治 泰

執行役員 大塚 恒 博
 執行役員 坂口 哲
 執行役員 長谷川 寿
 執行役員 荒 剛 史
 執行役員 大平 潤 一
 執行役員 宮 由 光
 執行役員 廣瀬 晋

ホームページアドレス <http://www.nichirei.co.jp/>